

CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)オーヴィジョン本山町 新築	階数	地上15F	 お任せください。	
建設地	熊本県熊本市中央区本山町字井手	構造	RC造		
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	0 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2023年12月 予定	評価の実施日	2022年6月10日		
敷地面積	2,227 m ²	作成者			
建築面積	509 m ²	確認日			
延床面積	4,913 m ²	確認者			

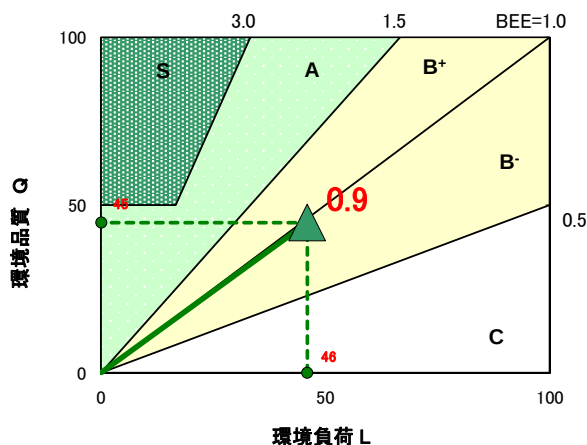
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 0.9

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$



■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★
30%超60%以下	★★★★
60%超80%以下	★★★
80%超100%以下	★★
100%超	★

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

100%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

75

評価点

【重点事項1】温室効果ガス排出量削減の推進

79.2

【重点事項2】安全安心で暮らしやすい社会の実現

65.0

【重点事項3】県の地域資源の有効活用と保全

75.0

【重点事項4】循環型社会の実現

75.0

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

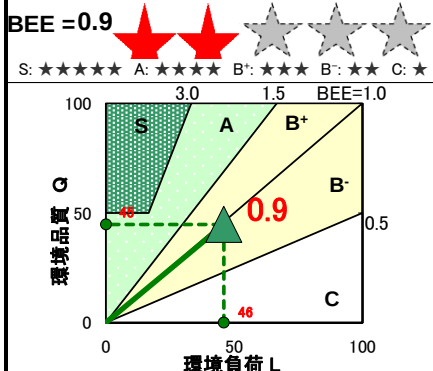
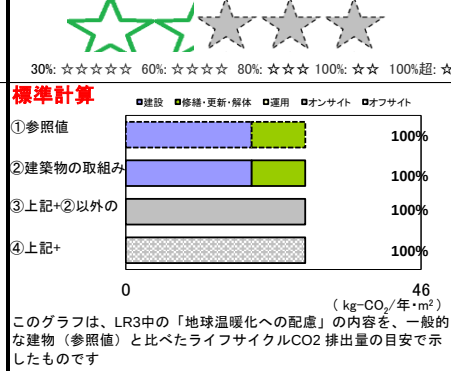
評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)オーヴィジョン本山町 新築	階数	地上15F
建設地	熊本県熊本市中央区本山町字井手	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年12月 予定	評価の実施日	2022年6月10日
敷地面積	2,227 m ²	作成者	
建築面積	509 m ²	確認日	
延床面積	4,913 m ²	確認者	

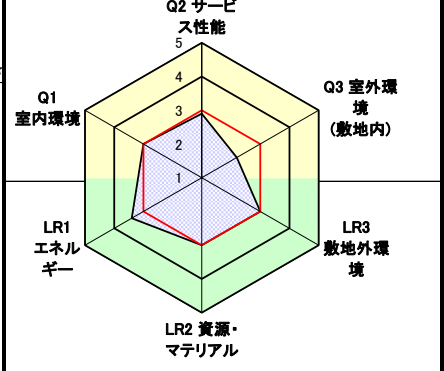


ください

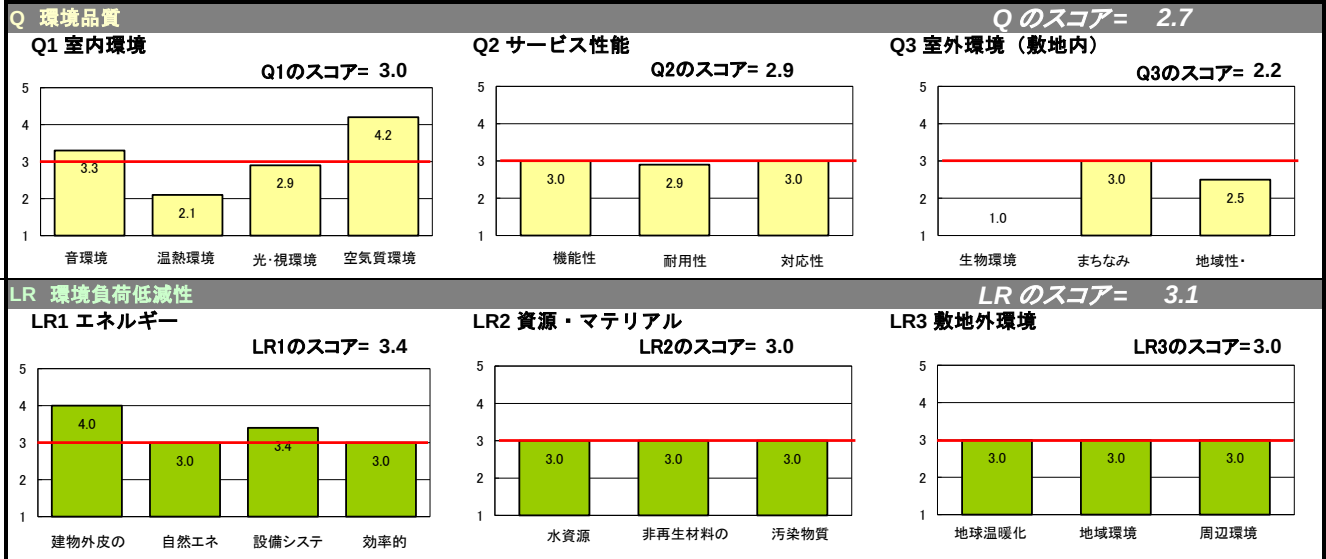
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価		重点事項の評価(レーダーチャート)	
		評価点 = 75	
重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進	評価点 = 79.2	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現	評価点 = #####
			
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全	評価点 = 75.0	重点事項4: 循環型社会の実現	評価点 = 75.0
			

温室効果ガス排出量削減の推進

125

100

75

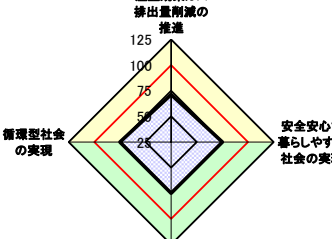
50

25

循環型社会の実現

安全安心で暮らしやすい社会の実現

県の地域資源の有効活用と保全



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)オーヴィジョン本山町 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.7
Q1 室内環境					0.40	3.0
1 音環境				4.0	0.15	3.3
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0
1.2 遮音				5.0	0.50	3.6
1 開口部遮音性能	サッシT-2仕様とする			5.0	1.00	5.0
2 界壁遮音性能				-	-	3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0
1.3 吸音				-	-	-
2 温熱環境				2.3	0.35	2.1
2.1 室温制御				1.7	0.50	2.1
1 室温				1.0	0.63	1.0
2 外皮性能				3.0	0.38	4.0
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-
2.3 空調方式				3.0	0.30	-
3 光・視環境				2.4	0.25	3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.30	3.0
1 昼光率				3.0	0.60	3.0
2 方位別開口				-	-	3.0
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0
3.2 グレア対策				1.0	0.30	3.0
1 昼光制御				1.0	1.00	3.0
3.3 照度				3.0	0.15	3.0
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0
4 空気質環境				4.2	0.25	4.2
4.1 発生源対策				5.0	0.60	5.0
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆、VOC放散量の少ない建材を採用			5.0	1.00	5.0
4.2 換気				3.0	0.40	3.0
1 換気量				3.0	0.50	3.0
2 自然換気性能				3.0	-	3.0
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0
4.3 運用管理				-	-	-
1 CO ₂ の監視				-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-
1 機能性				3.0	0.40	3.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0
2 高度情報通信設備対応				1.0	-	3.0
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0
1 広さ感・景観				3.0	-	3.0
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-
3 内装計画				3.0	1.00	3.0
1.3 維持管理				3.0	0.30	-
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-
1 躯体材料の耐用年数	日本住宅性能評価表示基準の構造躯体劣化対策等級2を取得			3.0	0.20	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-
2.4 信頼性				2.6	0.20	-
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-
3 電気設備				1.0	0.20	-
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.0	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			-	-	3.0	0.50	
	1 階高のゆとり		3.0	-	3.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ		3.0	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.96	3.4	0.50	-	-	3.4
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		3.0	-	-	-	
	集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水		3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
	2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	ハロン消火剤を使用しない	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1 大気汚染防止	延焼機器を採用しない	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音		3.0	0.33	-	-	
	2 振動		3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭		3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告塔なし	3.0	0.70	-	-	
	2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	外壁グレア影響なし	3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

自然・地域環境に配慮した建物を目指す。

Q1 室内環境

音・熱・光換気等の環境に配慮している。

Q2 サービス性能

設備の更新性に配慮している。

Q3 室外環境（敷地内）

可能な限り緑地としている。

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

内装材等、資源のリサイクル。

LR3 敷地外環境

可能な限り緑地としている。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)オーヴィジョン本山町 新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		75
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				79.2	0.40	31.68
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	1.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.4	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				75	0.20	15.00
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数